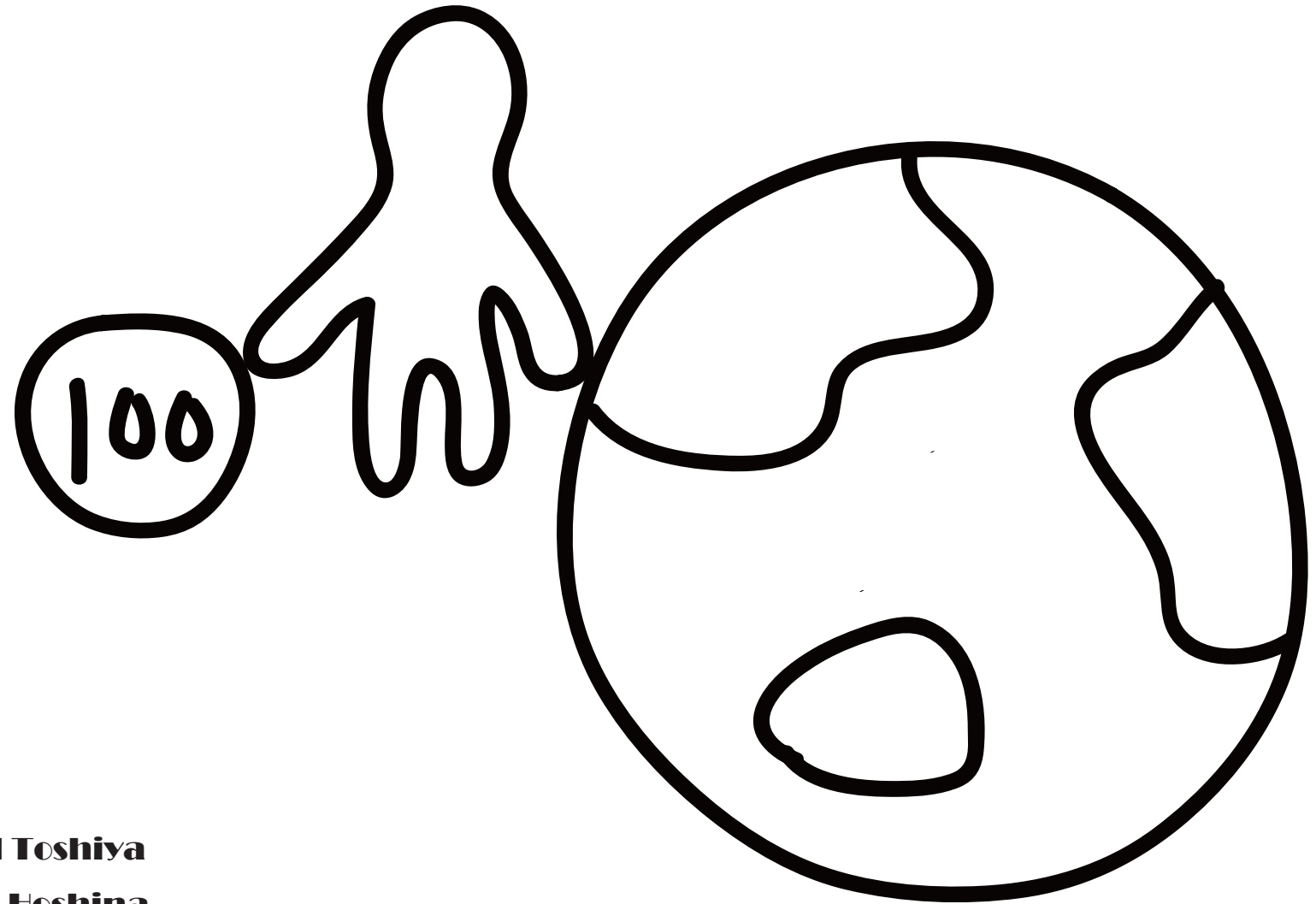


**morimura seminar 2009**

# **SOCIAL ECOLOGY**



**TAKAHASHI Toshiya**

**NAKAMURA Hoshina**

**NAMIKI Erika**

**SEGAWA Azumi**

## 0. はじめに

今回、第6章「ソーシャル・エコロジー」について扱う。

前回の文献を思い出して欲しい。

「ディープ・エコロジーもスピリチュアル・エコロジーも不十分である。ソーシャル・エコロジーが提唱するタイプの経済的転換を通じてのみ、真のエコロジカルな正義が達成されうるのだ」

ソーシャル・エコロジーによる「経済的転換」とはどのように引き起こされるのか。

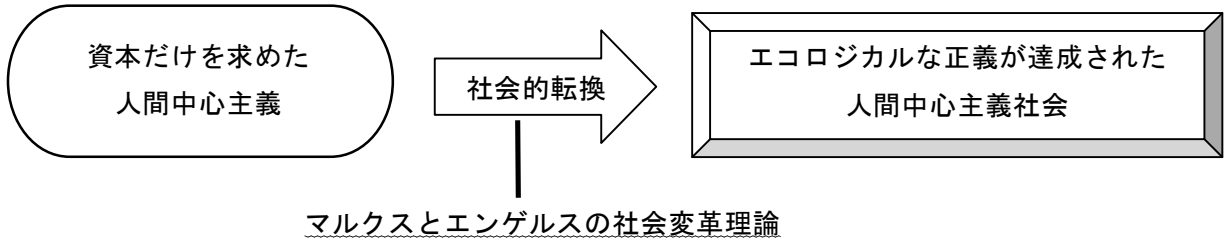
今回の発表では、ソーシャル・エコロジーの思想から、「人間—自然」の関係を考える。

議論では、今までの思想の立場から、ラディカル・エコロジーを考える。今まで研究した思想と比較して、ソーシャル・エコロジーを評価して欲しい。

## 1. ソーシャル・エコロジーとは

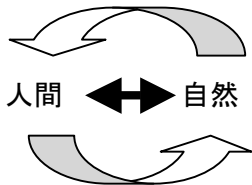
### ■人間中心主義

自然と人間との住み良い共存の世界に向けて、**人間中心的主義の立場から社会的転換によりアプローチする考え方。**



【エコロジカルな正義が達成された人間中心主義社会ってどんな社会？】

利潤だけを求めた人間中心主義ではなく、  
生態学&弁証法的科学を使って



相互依存の結びつきを重視した人間中心主義  
社会

### ■マルクスとエンゲルスの社会変革理論

物質的な生産力と社会的な生産関係との衝突により新たな生産関係が出来る。

### ■ソーシャル・エコロジーの二つの思想

#### I. アナーキスト・ソーシャル・エコロジー

エコロジカルな全体は部分の総和を超えたものである

#### II. ソーシャリスト・エコロジー

資本主義を「エコロジカルな社会主義」へ転換

#### 【資本主義の二つの矛盾】

1、「生産諸力」と「生産諸関係」との矛盾

2、オコンナーによる「生産」と「生産が行われる環境の諸条件」との矛盾

## 2. エコロジカルな社会転換

### ■資本主義と産業化がもたらした問題

- ・「生態学的な」問題
  - ①利潤追求のための生産による、土地の劣化
  - ②産業と消費から生まれる廃棄物が環境に蓄積された
  
- ・「社会的な」問題
  - ①自然を資本化したことによる、人間の資本化（＝労働者の搾取）
  - ②労働する階級と資本家階級の格差が拡大した

**過度な利益追求、市場の競争的性格が  
「エコロジカルな危機」と「位階制」を生んだ**

### ■経済的転換

経済学者ジェイムズ・オコンナー

「マルクスの概念を越えて、生態学、自然の社会的構成、自然の自立の諸概念を統合」

【マルクスの理論】（＝第一の矛盾）

物質的な生産力	社会的な生産関係
・労働（働く人間） ・生産手段（工場などの土地） ・技術（機械や道具）	・労働する階級（労働者、奴隷、農奴） ・生産物を所有する階級 （資本家、奴隷所有者）
〔労働と技術の関係〕 技術が進歩すると必然的に人間の労働力に勝り、人間の労働力が縮小される。	〔労働者と資本家の関係〕 生産した物が、生産した本人（労働者）が所有するのではなく、資本家が所有する。 （生産物の横取り＝搾取）
ある社会体制のもとで生産力が発展していても、生産関係は変化しにくくそこに生じる矛盾が革命を引き起こして新たな生産関係を作る（社会の弁証法的発展）	

【オコンナーの理論】（＝第二の矛盾）

生産（生産力と生産関係）	生産環境の諸条件
<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働、労働手段、技術</li> <li>・労働者と資本家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源（労働）</li> <li>・自然資源（材料）</li> <li>・作業場面（コミュニケーションの場）</li> </ul>
<p style="text-align: center;">〔資本主義の生産方式〕</p> <p>利潤追求により、生態系に対する農業、林業、漁業の破壊的方法を促す。</p>	<p style="text-align: center;">〔生産の3つの条件〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 労働者の人的条件</li> <li>2. 外的・物理的条件</li> <li>3. 生産の社会的条件</li> </ol>
<p>生産の諸条件が生産諸力および諸関係と衝突することにより、エコ-経済的な危機をもたらし、エコロジカルな社会主義への移行の端緒となる</p>	

■社会変革の主体

[第一の矛盾]・・・伝統的な労働者階級と社会主義運動が生産関係を変革する

→**経済危機**が主体

[第二の矛盾]・・・新しいエコロジカルな社会運動

→**エコロジカルな危機**が主体

〔 エコロジカルな危機と社会運動は、資本主義がより一貫した社会的な方法で潜在的には社会主義的方法で答えるよう強いる 〕

3. 他のラディカル・エコロジー概念との比較

■ ディープ・エコロジー

ディープ・エコロジー	ソーシャル・エコロジー
生態系中心主義の倫理	人間中心主義の倫理
社会構造のもつ前提そのものに問題の原因を求める	人による人の支配を認めるという社会構造に問題の原因を求める
個人の社会、自然に対する意識の改革	政治・経済システムの変革
積極的な人口調節	経済プログラムを前提とする人口安定

<批判>

- ① (DE) 相互的連関というエコロジカルな概念を、全地球的な資本主義に拡張することができない。  
⇔ (SoE) エコロジカルな社会主義への移行を進める。
- ② (DE) マルサス主義的前提のもとに受け入れられる人口調節論は、平等性を達成しない。  
⇔ (SoE) 社会的な転換によって、人間の平等が達成される。

■ スピリチュアル・エコロジー

スピリチュアル・エコロジー	ソーシャル・エコロジー
自然に対する個人の価値観の転換を求め、それを地球を救う行動につなげる	エコロジカルな社会運動による経済構造の転換で、結果的に地球は救われる

<批判>

- ① (SpE) 個人的な意識の転換と政治的行動には影響を及ぼすことはできるが、政治的原理として社会的な影響を及ぼすことは難しい。  
⇔ (SoE) 人間の条件、転換の経済的基盤を是正して、新しいエコロジカルな社会的形態を創出する。

ソーシャル・エコロジーは、人間中心主義を根本としているために、「人間—自然」の関係だけでなく、「人間—人間」の関係を考える必要があると述べる。資本主義による生産方法を見直し、エコロジカルな社会主義への「経済的転換」を期待する。そうして達成される社会正義が、エコロジカルな正義につながるのである。つまり、「エコロジカルな正義の達成」＝「社会正義の達成」＝「経済的転換」が成り立つ。

「経済的転換」はエコロジカルな危機意識が要求される。

現在、この意識は蔓延しつつあるようだが、未だ「経済的転換」は起きていない。資本主義の恩恵を受けている人々のためであると考える。

私たちは、個々の危機意識を集結せねばならない。その集結が、経済的転換を実現させることになるのだ。

ディープ・エコロジー、スピリチュアル・エコロジーと比較して、ソーシャル・エコロジーは人間社会の持続可能な発展を掲げている点で、現実的な思想である。

しかし、どの思想についても間違いということはない。それぞれの目標は、自然を守るための行動の契機となることに変わりはないためだ。

キャロリン・マーチャントは以下のように述べる。

「ラディカル・エコロジストたちの陣営の間の論争は、重要なのである。というのは、論争を通じて彼らは、変革のための彼ら自身の提案を再考し、評価し直すようお互いに強いるからである」

この文章を受けて、これまで学んできた3つの思想からラディカル・エコロジーについて議論する。

私たちは、どのような思想の下で自然に接することが出来るであろうか。